

# 手外科シリーズ

## 18. 野球肘



監修  
一般社団法人  
日本手外科学会広報委員会



制作  
エーザイ株式会社

18

や きゅう ひじ  
野球肘

● 症状 ●

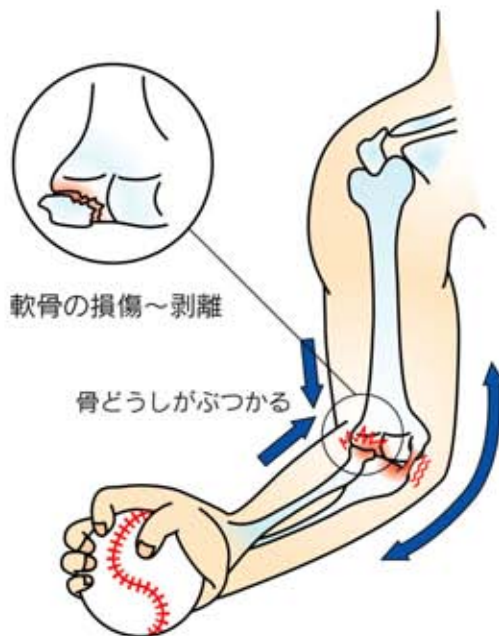
成長期にボールを投げすぎることによって起こる肘の障害を野球肘と呼びます。  
投球時や投球後に肘が痛くなります。  
肘の伸びや曲がりが悪くなり、急に動かせなくなることもあります。



● 原因・病態 ●

繰り返しボールを投げることによる肘への過剰な負荷が原因です。

肘の外側では骨どうしがぶつかって骨と軟骨がはがれることもあります。肘の内側では靭帯や軟骨がいたみます。



軟骨の損傷～剥離

骨どうしがぶつかる

内側では靭帯や成長軟骨がいたみます。

靭帯が引きのばされる

## ● 診断 ●

肘に痛みがあり動きも悪いなどの症状であれば、野球肘が疑われます。レントゲン検査やMRI検査で診断します。



レントゲン像

①骨の不整像      ②成長軟骨の異常

## ● 治療 ●

投球の中止が重要で、我慢して投球を続けると障害を悪化させます。局所の安静が必要です。症状によっては手術が必要になることもあります。



骨に穴を数ヶ所あける手術



骨を釘のようにして移植する手術

手術により軟骨の修復を助けます  
(その他に骨軟骨移植などの手術法もあります。)

スポーツへの復帰時期については主治医とよくご相談ください。



監修  
一般社団法人  
日本手外科学会広報委員会



制作  
Eisai エーザイ株式会社